

材料

研究機関研究員

研究者になることにチャレンジ!

橋本綾子 (独)物質・材料研究機構 表面構造・物性ユニット 研究員)

仕事の内容とやりがい

現在、公的研究機関で、材料研究をしています。学生時代やその後のポスドクをやっていた時には、優れた材料を作ることを目指して研究していました。今は、少し違った観点からの材料研究をしており、透過型電子顕微鏡という、原子レベルで材料を観察したり、分析できる装置に関連する技術や装置開発をしています。日々、新しい材料が作られ、それを測る道具に対しても要求が高くなっているからです。直接的に原子スケールの構造や動きが見られ、「これは、私しか見たことがないかも!？」と思えるのが興奮します。観察技術の発達により、今まで分からなかったことを明らかにし、材料作りに貢献できることを願って研究しています。

仕事と生活とのバランス

博士課程の途中で、文系出身の夫と結婚しました。全く違う仕事ですが、好きなことを仕事にしたという共通点から、同志のような関係で、お互い仕事中心の生活を送っていました。しかし、4年前に娘ができてから、生活は激変しました。夫の仕事は時間的拘束がある仕事なので、私が家事・育児をすることを覚悟(夫が3カ月育児休暇を取ったことは付け加えておきます)。今は、両親のサポートと職場の理解と協力を得ながら、仕事と家庭のことをなんとかやっています。まだまだ手探り状態ですが、私の周りには先輩女性研究者がロールモデルになってくれています。

進路決定のきっかけ

幼い頃から、理科や数学が好きだったので(成績が良かったとは限りませんが)、理系進学だと思っていました。というのも、母も薬学系出身だったため、理系進学には抵抗はありませんでした。将来、ロケット作りに携わる仕事がしたいと思い、大学は機械工学科を志望しました。大学に入ってから、機械工学の中でも材料工学に興味を持ち始め、材料強度学の研究室に所属しました。修士課程の途中で、憧れていた研究者にチャレンジしたいと博士課程に進学。当時は、挑戦せずに諦めて、後悔しないようにという感じででした。研究室で先生に見せていただいた透過型電子顕微鏡の原子の写真に魅せられて、今はロケットとはかけ離れたナノの世界で研究者をしています。

進路選択に対するメッセージ

自分自身のことを振り返ると、将来やりたい仕事があって、そのために進路を選択したつもりでしたが、ある出会いで、今は違うことをやっています。将来像を描けている人は、もちろん、それに向かって進路を選べばいいのですが、そうでないときは、今、興味のあるところからまず進んではいかがでしょうか。やっていく中で、人や物、出来事などとの出会いがあったり、チャンスが訪れたりします。私のように、そこから新たな道が開けてくるかもしれません。立ち止まっただけでは始まりませんので、まずは一歩を踏み出して下さい。

海外留学・勤務を通じて得たこと・得したこと

海外経験で得たものとしては、新しい研究ができた、技術や手法が学べた、友達ができ、異なる文化に触れられた・・・などなどが挙げられますが、今の私にとって影響が一番大きいのは、仕事の取り組み方の一つを知ることができたことです。連日深夜まで実験している学生に対し、先輩が「研究の効率が悪いのではないか?」と言ったことがありました。英国では、夕方には帰宅し、家族や友人との時間を過ごす人が多いです。当時は、あまり深く考えていませんでしたが、今、仕事と家庭(家事と育児)に追われる毎日を過ごしていると、その言葉が思い出され、時々、自問自答しています。

海外の女性研究者の活躍と位置づけについて感じたこと

私がお世話になった研究室では、男女を問わず、ほとんどの学生、ポスドク、教職員が6時くらいには帰宅していました。また、英国では、夕方から始まる勉強会や習い事、集まり、イベントなどが多くありました。女性が働きやすいというだけでなく、男性も、女性も、仕事と家庭のバランスをうまくとって生活しているように感じられました。話を聞けば、まだまだ課題はあるようでしたが、男女共同参画という点では、日本の先を行っているように思いました。

海外留学・勤務を決めたきっかけについて

大学時代の恩師、大学修了後の勤務先の上司など、留学や海外でのポスドク経験を持った方が私の周りには多くいました。海外での楽しい話、苦勞話、失敗談などをいろいろ聞くと、私も海外に興味を持つようになりました。特に、大学時代の先生は、一度、海外を見てくると、大きな視野で物事を捉えられるようになると、海外経験を持つことを強く勧めていました。大学時代の留学は叶いませんでしたが、その後、日本学術振興会のポスドク研究員になり、約1年、英国で研究をしました。

滞在先の思い出・生活者としての体験

私が滞在したオックスフォードには、世界各国から学生や研究者が集まってきました。研究室は英国人よりも外国人の方が多かったですし、宿舎は外国人専用。英国にいながら、様々な国の方と接することができました。それまでの私の(日本の)常識が、海外では通用しないことを実感する毎日でした。初めは、戸惑うことも多かったです。段々、「違う」ということを前提に考えられるになり、日本のいい点、悪い点を考える余裕ができてきました。例えば、日本食のすばらしさ・・・日本食ブームが来る少し前でしたが、パーティーではよく寿司を作られました。



<橋本綾子(はしもとあやこ)プロフィール>

お茶の水女子大学付属高校→慶應義塾大学理工学部→同大学大学院理工学研究科(修士課程)→同大学大学院理工学研究科(博士課程)・同大学理工学部機械工学科 助手(有期)
 <途中で結婚>→(独)産業技術総合研究所 博士研究員・日本学術振興会特別研究員(PD)
 <途中でオックスフォード大学 訪問研究員>→(財)神奈川科学技術アカデミー 常勤研究員→(独)物質・材料研究機構 ナノ計測センター ポスドク研究員を得て現職<途中で長女出産>



研究室仲間とピクニック